

2011年(平成23年)1月19日 水曜日

滴一滴

障害者やがん患者らの支援にピアサポートと呼ばれるものがある。「ピア」は英語で仲間の意味。

同じ体験をした人たちが話を聞いたり語ったりして支える。深い共感が力になるのだ。▼1年前のハイチ大地震で右脚を失った少女ガエル・エズナールさん(18)が、義足を提供した岡山市の国際医療ポラントティア・AMDAの招きで来日し、神戸市の震災障害者と対面した。つらい体験をどう乗り越え、生きているのかを聞くのが目的だった▼震災障害者は阪神大震災で障害を負った人たちだ。兵庫県と神戸市が昨年初めて実態を調査し、支援に乗り出した▼県は

当初、他の障害者と区別すべきではないと調査に消極的だった。だが、家族や家や仕事を一度に失いながら障害と向き合うことは計り知れない苦悩があるだろう▼エズナールさんは自宅で知人の赤ちゃんを抱いていた時に被災した。がれきから救出されて目に入ったのは、ひざの上で死んだ赤ちゃんだった。友人も失った。義足を得ても、治安の悪化で外には容易に出られない。災害のつめ跡は大きく、抱える「障害」は一つではない▼震災障害者と交流後、神戸市の追悼式典に臨んだ彼女は「(被災者の)思いはどこでも同じ」と祈りをよびかけた。震災から16年。伝えるべき経験はまだまだある。